

わっしょい 輪

いちのせき
協働ニュース

わっしょい！

2015年12月

vol.7



新制・小梨自治振興協議会 を紹介します！

小梨自治振興協議会

会長：三浦 邦弘

問い合わせ先

電話：0191-52-2496 (小梨市民センター)

小梨自治振興協議会の設立時の経過

小梨自治振興協議会は、小梨地区内の自治会や各種団体相互の連携協調を図り、地域の振興発展に寄与することを目的として平成4年6月に発足しました。

当時の構成は、自治会長・区長・婦人会長・老人クラブ連合会長・青年会長・生涯学習推進員をもって組織し、その後、農家組合長・PTA会長を加えて、小梨地区民祭や地域づくり指導者研修、新春祝賀会などを開催してきました。

地域協働体の登録と新制「小梨自治振興協議会」の誕生

平成22年に市が策定した協働推進アクションプランでは、地域協働のまちづくりを住民が主体となって進めるための組織(地域協働体)づくりを促進していくことが明記されています。小梨自治振興協議会は、その地域協働の推進母体となるため、平成25年4月に地域協働体の登録をしました。

以降、同協議会では地域協働について理解を深めるため、先進地視察や地域づくりに関する講演会、おらほの明日を考える会(子供会と育成会のワークショップ)、新春おらほの夢語り大会等を開催して地域協働についての理解を深めてきました。

そして、役員会を重ねた結果、地域協働を進めていくには現在の小梨自治振興協議会の構成団体(40団体)では不足しているため団体を増やさなければならない。また、現在の規約を全面的に見直すことも必要であるとし、役員会で規約の全面改正の協議を重ねました。その後、地区内の各種団体等を集めて説明会を開き一定の理解を頂きました。



平成27年4月24日に行われた小梨自治振興協議会総会では、規約の全面改正(構成団体は98団体)、事業計画、収支予算、新役員を選任等を決定し、新制「小梨自治振興協議会」が誕生しました。

事業計画では、これからの小梨地区をより良い地域にするために今年度「地域づくり計画書」を策定することとしており、早速、5つの専門部会毎にワークショップを開催して作業に着手しました。

現在は、役員会を重ねて地域づくり計画書の作成を進めており、年内の完成を目指しています。

地域協働推進員の紹介

今年4月から小梨市民センターの地域協働推進員として、小梨地区の地域づくりを担当している千葉秀一さんを紹介합니다。千葉さんは千厩町清田出身で、平成27年3月まで小梨公民館の公民館指導員として活躍された大ベテランです。特に青少年教育が専門で、東京都世田谷区と小梨地区との地域間交流であるPALPAL交流事業を30年間担当し、今も引き続き担当しています。

【千葉さんから一言】

現在、小梨自治振興協議会の地域づくり計画書の策定を行っています。当地区はこれまでに多彩な地域づくり活動を展開し、それが評価され内閣総理大臣賞をはじめ各種の表彰を受賞している地域です。これまでの地域づくりが更なるレベルアップをしていく指針となる計画書づくりに取り組んでいます。

人口減少社会、高齢社会、少子社会と時代は目まぐるしく変化します。その変化の芽をとらえ、更なる地域づくりへと高めていく。それを担うのが協働推進員の役割と考えています。



各地域の協働の取り組み



滝沢地域振興協議会

会長：小野寺 弘文

問い合わせ先
電話：0191-23-8844
(一関市民センター滝沢分館)



第1回ワークショップでのグループ討議

滝沢地域の概略

私たちが住む滝沢地域は6つの行政区からなり、約1,000世帯で約2,800人が居住しています。地理的には一関市のほぼ中央に位置し、立地条件の良さから昭和50年代からミニ団地が造成され、田園地帯の中に住宅地が共存しています。

地域振興協議会設立の経緯

従来から滝沢地域には「明るく住みよい真滝をつくる会」や「滝沢川の清流を守る会」などがあり、地域を良くするために様々な活動が行われてきました。しかし、「人口減少」や「少子高齢化」などの問題が地域に大きな影を落としている昨今、今後の滝沢地域の更なる発展を期すためには組織を一新して再出発することが必要であるとの考えから、平成26年3月にそれぞれの総会で発展的解散をしました。

そして平成26年6月、この滝沢地域を「明るく住みよい環境」にして次世代にバトンタッチしていくことは私たちの責務であるとの住民意識が醸成され、これらの経緯や必然性、そして地域の皆様のご協力で滝沢地域振興協議会が発足しました。

現在の活動状況

今年2月から10月にかけて「地域づくり計画」策定に向けた活動に取り組みました。

各種団体との懇談会、住民アンケート調査の実施、ワークショップ(2回)の開催など、多方面から様々なご意見をいただき、これらを基に計画策定委員会(2回)を開催し策定した「滝沢地域づくり計画書」は、10月7日に市に提出しました。

今後については、いよいよ地域づくり計画書に掲げたビジョンの実現に向けて、協議会と専門部会、地域の皆さんと共に各種計画を具体的に進めていきます。

なお、直近で重点的に取り組んでいる内容は、

- (1) デマンド交通の調査研究
- (2) 指定管理への移行 目標：29年度
- (3) 地域内の情報の共有と迅速化(安心安全部会)

さらに今後は、高齢者や一人世帯への支援の具体化(生活福祉部会)、地域に伝わる行事や地域の達人発掘など(教育文化部)、農産物や耕地をテコとした地域の活性化(地産地消部会)などに取り組んでいくこととしています。

地域協働推進員の紹介

5月から地域協働推進員として滝沢地区の皆様の間に入りしました阿部由起子です。滝沢地区のみなさんとの出会いを大切に、みなさんの声をお聞きしながら地域づくりのお手伝いをしていきたいと思っています。よろしくお願いします。



各地域の協働の取り組み



中里まちづくり協議会

会長：辻山 慶治

問い合わせ先
電話：0191-21-2152
(中里市民センター)



平成27年度総会(H27.4.25)

一関地域に今年2月22日に発足した中里まちづくり協議会(以下「協議会」)を紹介します。

中里地区の協働の取り組み

中里地区の協働の取り組みは、一関市協働推進アクションプランが平成22年12月に策定されたことを受け、23年度に同プランの説明会、協働推進先進地視察、協働のまちづくり懇談会を行い、25年度には中里地区元気なまちづくりワークショップなどを行ったほか、文部科学省委託事業「公民館を中心とした防災活動による地域コミュニティ強化事業」を行い、協働の醸成を図りました。

一関市地域協働推進計画が平成26年3月に策定されたことから、同年4月から更に勉強会・説明会等を重ね、同年7月18日に「中里地区まちづくり協議会(仮称)」設立準備会(以下「準備会」)を発足しました。その後、協働体設立に向けて、中里地区の魅力・課題や中里地区内各種団体の現状等について住民等で検討後、協議会構成員等準備会でさらに話し合いを進め、平成27年2月22日の設立総会において中里まちづくり協議会を設立しました。

協議会では、中里地域住民を主体とする自立と協働により、地域内の課題解決と、住みよい地域社会の構築を目指し、住民の参画と行政との情報の共有を

図りながら、自主的、主体的に地域活動を行うこととしています。

27年度の活動状況について

4月25日に開催した27年度総会において、地区の将来像を見据え今後の活動の基本となる中里まちづくり計画を策定することとしました。計画の策定にあたっては策定チームが結成され、ワークショップ等を行い「ひとが輝き・地域が輝くまちづくり」を基本理念とする中里まちづくり計画が策定されました。

計画では、中里まちづくりの目標として、①コミュニティの活性化(住民同士の連携や世代間交流の活発なまちづくり)、②安全・安心の確保(支え合いによる安全・安心なまちづくり)、③景観・地域環境の保全(遊水地堤防など恵まれた自然環境を活用したまちづくり)、④持続可能な体制の構築の4つにまとめ、27年度はその具体的な取り組みについて、3つの実践プロジェクトチームで活動を行っているほか、40代以下の青年層による「底力会議」も活動を始めています。

地域協働推進員の紹介

中里地区の地域協働推進員、齊藤裕美さんを紹介します。齊藤さんは中里に生まれ育ち、市教育委員会生涯学習指導員等の職歴を持ち、地域では中里鶏舞踊り隊代表など、地域の様々なイベント等にも関わり、地域活動に貢献してきました。齊藤さんは、そのネットワークの広さを活かして協議会の事務局として活躍しています。

【齊藤裕美さんからひとこと】

中里市民センターの地域協働推進員として、4月1日から勤務している齊藤裕美です。中里まちづくり協議会は「ひとが輝き・地域が輝くまちづくり」を基本理念として中里まちづくり計画が推進されているところです。地域の宝を活かし、たくさんの子どもや大人が笑顔でつながっていきけるような楽しい事業をみんなで取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。



各地域の協働の取り組み



永井地域コミュニティ活性化協議会

会長：千葉 章夫

問い合わせ先
電話:0191-84-2557
(永井市民センター)



第1回永井市民センターまつりでの郷土芸能伝承保存会による獅子舞

協働体の説明

永井地区では、地域づくりの進め方をこれまでの「行政主導型」から「地域協働型」としていくことを目指し、平成26年8月に地域協働体設立準備委員会を発足しました。それ以降、委員会やワークショップの開催、セミナーへの参加などを経て、平成27年3月に永井地域コミュニティ活性化協議会を設立しました。

永井地区には、人と人が支えあう繋がりや、獅子舞や神楽などの伝統芸能、さまざまな行事等、守ってきたいものがたくさんあります。

《これからの永井》を《オール永井》で考え、行政との協働を図りながら、地域住民や各団体が一丸となって自主的・自発的に活動する、いきいきとした豊かな永井を目指し地域づくりを進めていきます。

今後の取り組み

本協議会では保健・福祉やスポーツ、生活環境、文化・芸術など様々な面から永井地区のコミュニティの活性化を推進する事業を展開していきます。

その1つとして、市の「元気な地域づくり事業」を活用して11月に「第1回永井市民センターまつり」を開催しました。昨年までは「永井地区文化祭」として開催していましたが、地域づくりの拠点としての機能を強化するために「公民館」が「市民センター」と変わったことから、行事も新たな名称でスタートしました。行事の内容も、「地域づくり」という目的を加え、子供から高齢者までみんなが交流しながら楽しめる事業となるよう計画し、地域住民で賑わい、活気のある市民センターまつりとなりました。

また、本協議会では、10年後の地域を描き、その実現を目指して「地域づくり計画」を策定します。そのために、地域住民、集落公民館長、各種団体等へのアンケート調査を行うこととしています。

永井地域の好きな所や困っていること、要望など、たくさんの生の声を聞き、計画に活かしていきます。

地域協働推進員から一言

8月から地域協働推進員として永井市民センターに勤務しております、菊地あづさです。

地元である永井の地域づくりに関わることができ、うれしく思います。

地域づくりは、たくさんの段階を踏み、少しずつ何年もかけて地域みんなで実現していくものだと感じます。そのために、まずは皆さんと積極的にコミュニケーションをとり交流を深めたいと思っていますので、よろしくをお願いします。



各地域の協働の取り組み



渋民振興会

会長：菊池 紘一

問い合わせ先
電話:0191-75-2706
(渋民市民センター)



「もし自分が一関市長になったらどんな渋民地域にしていきたいかを語ろう」をテーマに開催した中高生のワークショップ

団体の特徴

地域協働体設立：平成24年8月

世帯数：339戸、人口：1,086人、行政区数：5区

地域：国内の刑法思想の根本原理を論じた「無刑録」の著者芦東山（江戸時代中期の仙台藩儒学者）の出身地。自然環境に恵まれた田園地帯に企業や産直、福祉施設などが集まっています。

中高生も交えてワークショップ

渋民振興会は、大東地域で最初に設立された地域協働体です。

同振興会は、地域計画づくりと並行しながら直面する地域課題に対応した活動をしています。

現在は地域づくり計画の策定に取り組んでおり、地区内に居住する中学生以上が参加してワークショップを開催しています。世代を超えて地域をより広く深く知り、課題を探る討議を重ねています。中高校生の発言や意見に新鮮さや頼もしさを感じながら和やかに進められ、年内の策定を目標に取り組んでいます。

振興会の音頭で実行委員会立ち上げ

地区では、毎年9月に渋民八幡神社の例大祭が行われています。

昨までは自治会ごとに廻り番で建元を務めていましたが、今年初めて渋民地区振興会が主体となって、秋まつり実行委員会を立ち上げました。地域の高齢化や自治会員の減少などにより奉納行事などの運営が困難となったため、同振興会が、先導役を務めました。十数種に及ぶ神饌清祓の儀や行列を組んでの神事を行い、渋民伊勢神楽などを奉納しました。

お互いさまを大事にする風土

渋民地区には、高齢者の生きがいや地区民の憩いの場として、互いに顔を合わせ交流できる場所、地域特産物直売組合「産直ふるさと大東」があります。

国道343号線沿いの渋民橋近くにある同産直は、有人産直の先駆けとして20年前に地区民の皆さんが協力し立ち上げました。

渋民地区には、気遣い思いやりの心で「お互いさま」の気持ちを大事にする風土が築かれています。地区の特性を生かした幅広い年齢層や企業、施設も加わった渋民地区オリジナルの計画に期待が寄せられます。



室根まちづくり協議会

会長：三浦 幹夫

問い合わせ先
電話：0191-64-2347
(室根市民センター)



三浦幹夫会長（中央）と岩淵和子副会長
「室根地域づくり計画」を室根支所長に手渡す

室根まちづくりの将来像 ～集い語らい「力合わせてみんなで創ろう」豊かな室根！～

室根地域づくり計画書では、将来像を実現するための目標として、

- 「1.安全で安心な暮らしができるまち」
- 「2.産業振興・地域資源を活用したまち」
- 「3.地域間・世代間の交流を通して人や文化を育むまち」

を掲げ、当面、優先的に取り組まなければならない事項として、若者が定着し活躍できる地域社会づくりや子育て環境の整備、地域住民の健康対策を取り上げました。どれも課題は山ほどありますが、ひとつひとつ、関係者が真剣に話し合い、特色を生かしながら、活気のある住みよい室根地域を創っていくこととしました。

若い人の地域づくりへの機運と情熱を高めていきたい

まちづくり協議会には、若者メンバー（通称「室愉会（むろゆかい）」）があります。若者目線の地域づくりのための事業の実施や、定例会を開催し、自分たちの成果や意見を協議会に提言しています。

三浦会長は、「若い人たちは、地域づくりに対する考えや意見をどんどん話して、機運を高めてほしい」と呼びかけています。

室根まちづくり協議会事務局員の紹介

昨年6月に地域協働推進員となった佐藤紀子さんは、今年6月から協議会の専任の事務局員として活動しています。

発行を続けている室根協働推進会報「むすび」も約1年半が経過し、毎月住民の方々へ活動の様子を伝えています。

【事務局員から一言】

協議会の活動の基本となる「室根地域づくり計画」が完成し、今後の動きもより活発になると感じています。これからも皆さんの笑顔にお会いできるよう、そしてお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願ひします。



団体の特徴

室根まちづくり協議会は、平成24年4月に設立された地域協働体で、室根地域の自治会振興会や各団体など41の団体が構成されています。

室根地域の課題や将来像について、「協議会」という大きな円卓会議の中での話し合いや住民アンケートをもとに、「室根地域づくり計画」としてまとめ、平成27年10月末に市に提出しました。

今後は、高齢者や若者の子育て環境や定住といった、最重要課題をわかりやすい概要版を作成し、住民の皆さんに配布する予定です。



いちのせき市民活動センター

NPO・行政・企業・地域の情報発信によりアイデアと出会いの機会を創ります

これまで地域づくりの背景についてお伝えしてきましたが、これからの地域づくりの仕組みについてお伝えします。

地域づくり計画の考え方

「計画」というと市の総合計画のような立派なものをイメージしたり、事業計画に対して、予算も一緒に考え計上しなければいけないと思いがちです。もちろん、そのようなものができればいいのですが、私たちが進めていく地域づくりは、かっちりとした形に当てはまるものばかりではありません。ましてや、理想の将来像に向けて取り組む事業において、細かな年次計画を理れるかという点、時代や制度の変化に伴い変更が生じることもしばしばあるため、地域づくり計画という名の地域づくりの方針と考える方がイメージしやすいです。

地域づくり計画の作り手順

地域づくり計画を作るためには、広く多くの地域住民の意見や気持ちを集めることが大切です。何か物事を決めていく場合は、少人数の方が決めやすいのですが、地域づくり計画の場合は、地域の思いを込めることになるので、一部の人で作るものではなく、「地域住民みんなでつくる」これを合言葉に進めていきましょう。

全員参加型での進め方

※進め方であり、必ずこの手順でなければいけないということではありません。

1. みんなにお知らせする

地域づくり計画を作る理由や策定スケジュールを地域のみなさんにお知らせします。「知らなかった」をなくすためです。

2. 住民ニーズを探る

アンケートで住民の声を集め、集約します。アンケートでは表現できないことを、懇談会を開催して、地域への思いを深めていきます。参加方法は2種類を意識することが大切です。懇談会にいかなくてもアンケートで参加することも、立派な参加意思です。

3. 引き出した意見をまとめる

アンケートや懇談会の内容を整理し、①将来の姿 ②地域の課題 ③事業の方針や具体策 ④地域づくりの考え方の大きく4つに振り分けます。

4. 事業の方針や具体案を掘り下げる

整理した内容の①②④については、出された内容を作文することである程度できますが、③の事業の方針や具体策については、抜けている視点があったり、あいまいな表現が含まれていたりするので深めます。

ちい き ひと
地域 そだて 人 そだて 地域づくりをサポートしています <http://www.center-i.org/>

いちのせき市民活動センター

一関市大町4-29 のはなプラザ4階
TEL 0191-26-6400 FAX 0191-26-6415

いちのせき市民活動センターせんまやサテライト

一関市千厩町千厩字町149
TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736

